

三河の昆虫

No. 31

1984年12月

〒444 岡崎市明大寺町
西郷中 生理学研究所
技術課内
三河昆虫研究会 発行
水谷印刷印刷
(05362) 3-1211(代)

渥美半島のコマツキムシ

大平 仁夫

渥美半島は豊橋から南西へ細長く突出した半島で、豊橋から約50kmの先端部が伊良湖岬である。ここは、愛知県では最も南に位置し、半島の東側は太平洋の黒潮が洗う海岸線になっている。

渥美半島の植生は思ったより貧弱で、山林の大部分は松を主体とする単純林で占められている。平坦地は農耕地化されていて、この地域本来の植生である暖帯広葉樹林は、海岸周辺の防風林として、神社の社叢林として、また山の谷間などに不連続的に残されているにすぎない。

筆者は今度、三河昆虫研究会の松野更一氏、山崎隆弘氏が採集された標本を調べることができたので報告する。ここに、標本を調査する機会を与えられた松野・山崎両氏に心から御礼申し上げる。なお、本文中の産地名は、豊橋寄りから先端部にかけて配列してある。

目 録

1. *Paracalais berus* (Candèze)

ウバタマコマツキ

普通の種であるが、渥美半島からの記録は思ったより少なく、大平・浅岡(1976)により越戸から、大平(1982)により先端部の小中山からの記録が知られているにすぎない。

(調査標本) 蔵王山、22-VI、79(1)松野；伊良湖岬、17-VI、79(1)山崎。

2. *Agrypnus (Agrypnus) binodulus binodulus* (Motschulsky)

サビキコリ
渥美半島では大平(1980)により泉福寺から、また大平(1982)により西ノ浜、小中山から記録されている。

(調査標本) 田原町六連、2-VI、79(1)、松野；越戸大山、2-VII、78(1)、松野。

3. *Agrypnus (Sabi kikorius) fuliginosus* (Candèze)

ホソサビキコリ
前種と同様、畑地やその周辺の山林でよくみかける種であるが、渥美半島ではこれが最初の記録と思われる。

(調査標本) 渥美町伊良湖神社、17-VI、79(1)、松野。

4. *Agrypnus (Colaulon) miyamotoi tsukamotoi* (Kishii)

ハマベオオヒメサビキコリ
海浜性の種で、渥美半島では各地の海岸砂浜で見出される。大平他(1979)による伊川津先端からと、大平(1983)による姫島からの記録がある。

(調査標本) 渥美町伊川津、20-V、79(1)、山崎。

5. *Aeoloderma agnata* (Candèze)

マダラチビコマツキ

畑地や雑草地に多い種であるが、渥美半島からはこれが最初の記録のようである。

(調査標本) 田原町ムクロジ、1-IV、79(1)、山崎。

6. *Pectocera fortunei fortunei* Candèze

ヒゲコメツキ

渥美半島では、大平(1980)による泉福寺からの記録がある。

(調査標本) 蔵王山、22-VI、79(1♂)、松野；田原町六連、2-VI、79(1♀)、山崎；越戸大山、5-V、76(1♂)、山崎。

7. *Athous(Pseudathous) secssus secssus*

Candèze クロツヤハダコメツキ (図1,A)

平地から山地にかけて広く分布している種であるが、渥美半島からはこれが最初の記録と思われる。

(調査標本) 蔵王山、17-VI、79(6)、松野；田原町南神戸、11-VI、79(2)、山崎；田原町大草、11-VI、79(2)、山崎；田原町六連、2-VI、79(1)、松野；越戸大山、17-VI、79(1)、松野；渥美町和地、17-VI、79(3)、山崎。

8. *Eanoides puerilis* (Candèze)

シリプトヒラタコメツキ

個体数は少ないが、三河地方の各地で見出されている。渥美半島では大平(1980)により泉福寺から記録されている。

(調査標本) 蔵王山、15-IV、79(1)、松野。

9. *Ampedus(Ampedus) hypogastricus hypogastricus* (Candèze)

アカハラクロコメツキ

松林に普通に見出される種である。渥美半島では大平・浅岡(1976)により越戸から、また大平(1980)により伊川津、泉福寺から記録されている。

(調査標本) 蔵王山、15-IV、79(3)、松野。

10. *Elater(Elater) sieboldi* (Candèze)

オオナガコメツキ (図1,C)

普通種であるが、愛知県からの記録は少ない。渥美半島ではこれが最初の記録と思われる。

(調査標本) 蔵王山、19-VIII、79(1)、山崎。

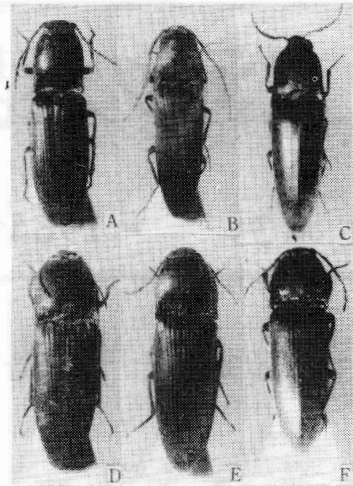


図1. A, クロツヤハダコメツキ (体長13mm、南神戸)；B, ヒゲナガコメツキ (体長14mm、伊良湖神社)；C, オオナガコメツキ (体長30mm、蔵王山)；D, オオクロクシコメツキ (体長18mm、南神戸)；E, ルイスクシコメツキ (体長19mm、久美原)；Dクシコメツキ (体長18mm、伊良湖岬)

11. *Neotrichophorus junior* (Candèze)

ヒゲナガコメツキ (図1,B)

三河地方の低地では多くの記録がある。渥美半島からは大平(1982)により先端部の小中山から記録されている。

(調査標本) 渥美町伊良湖神社、17-VI、79(1)、松野。

12. *Dolerosomus gracilis* (Candèze)

キバネホソコメツキ

普通の種である。渥美半島からは大平(1982)により先端部の小中山から記録されている。

(調査標本) 豊橋市小島町、3-V、79(7)、山崎；田原町仁崎、2-VI、79(1)、山崎；田原町ムクロジ、20-V、79(2)、山崎；渥美町柵、20-V、79(8)、山崎。

13. *Melanotus(Spheniscosomus) cete*

Candèze アカアシオオクシコメツキ

普通種である。渥美半島からは大平・浅岡(1976)により伊良湖、大平(1980)により伊川津から、大平(1983)により姫島から記録されている。

(調査標本) 豊橋市細谷、22-V、79(18)、山崎；豊橋市小松原、3-V、79(1)、山崎；豊橋市西七根、22-V、79(1)、山崎；田原町南神戸、11-IV、79(1)、山崎；田原町久美原、22-V、79(2)、山崎；田原町ムクロジ、20-V、79(5)、山崎；渥美町椏、20-V、79(2)、山崎。

14. *M. (S.) restrictus* Candèze

オオクロクシコメツキ (図 1, D)

三河地方では比較的珍しい種である。渥美半島からはこれが最初の記録と思われる。

(調査標本) 田原町南神戸、11-VI、79(4)、山崎。

15. *M. (Melanotus) legatus legatus*

Candèze クシコメツキ (図 1, F)

普通種である。渥美半島では神谷 (1956) により伊良湖から、大平 (1983) により姫島から記録されている。

(調査標本) 田原町久美原、2-VI、79(1)、山崎；蔵王山、21-VI、79(3)、山崎；越戸大山、26-V、78(1)、松野；伊良湖岬、21-VI、79(4)、山崎。

16. *M. (M.) lewisi* Schenkling

ルイスクシコメツキ (図 1, E)

前種と同様に各地で見出されているが、個体数は少ない。渥美半島からは山崎 (1978) によって蔵王山から記録されている。

(調査標本) 田原町久美原、2-VI、79(1)、山崎；蔵王山、21-VI、79(1)、山崎；伊良湖岬、21-VI、79(1)、山崎。

17. *M. (M.) senilis* Candèze

クロクシコメツキ

畑地で見られる普通種であるが、渥美半島からはこれが最初の記録と思われる。

(調査標本) 豊橋市細谷町、22-V、79(1)、山崎；田原町ムクロジ、20-VI、79(1)、山崎；田原町六連、2-VI、79(1)、松野。

18. *M. (M.) correctus correctus*

Candèze ヒラタクシコメツキ

やや森林性の種である。渥美半島からは大平 (1980) によって伊川津、泉福寺から記録されている。

(調査標本) 越戸大山、26-V、78(1)、山崎。

19. *M. (Kensakulus) erythropygus*

Candèze コガタクシコメツキ

雑木林で見出される普通種である。渥美半島からは大平 (1979) によって泉福寺から、大平 (1983) により姫島から記録されている。

(調査標本) 豊橋市小松原町、3-V、79(1)、山崎；田原町久美原、2-VI、79(1)、山崎；田原町六連、2-VI、79(2)、松野。

20. *Paradicronychus (Platynychus) nothus* (Candèze) オオハナコメツキ

きわめて普通の種であるが、渥美半島からはこれが最初の記録である。

(調査標本) 豊橋市細谷、22-V、79(1)、山崎；田原町久美原、2-VI、79(3)、山崎；田原町大草、11-VI、79(1)、山崎。

21. *Cardiophorus pinguis* Lewis

クロハナコメツキ

普通種であるが個体数は多くない。渥美半島からはこれが最初の記録と思われる。

(調査標本) 豊橋市小島町、2-V、79(1)山崎。

引用文献

- 神谷一男 (1956) 南知多・渥美・蒲郡地方に産する昆虫類。三河湾自然公園調査報告書：50～61。
- 大平仁夫 (1976) 愛知県のコメツキムシ (北設楽山岳地帯を中心にして)。茶臼山高原道路建設予定地域の自然環境報告書：141～153。(浅岡孝知共著)
- (1979) 渥美郡伊川津先端の昆虫。こめつきむし、1：9-11。(高柳久和其他共著)
- (1980) 渥美半島伊川津・泉福寺周辺の昆虫類。伊良湖、13：9-11。
- (1982) 渥美半島の先端部西、兵周辺の昆虫類。伊良湖、15：21-22。
- (1983) 姫島の昆虫類について。伊良湖、16：17-19。
- 山崎隆弘 (1978) ルイスクシコメツキ三河での採集例。採集ニュース、1：6-7 (三河昆虫研究会)。

1982年、駒ヶ原高原で採集したカミキリ

河路掛吾

筆者は1982年に、駒ヶ原高原において数回の採集を行なったところ、一応の成果があったので報告する。採集は黒田貯水池付近（稲武町）から駒ヶ原および段戸牧場上部（設楽町段戸）で行なった。

1) ホソカミキリ

Distenia gracilis (BLESSIG)

31. VII, 1 Ex.

2) ニセハイイロハナカミキリ

Rhagium pseudojaponicum PODANY

29. V, 1 Ex.

3) フタコブルリハナカミキリ

Stenocorus caeruleipennis BATES

10. VII, 1 Ex.

4) キバネニセハムシハナカミキリ

Lemula decipiens BATES

15. V, 2 Exs.

5) ピックニセハムシハナカミキリ

Lemula rufithorax PIC

15. V, 3 Exs.

6) ヒナルリハナカミキリ

Acmaeops minuta (GEBLER)

15. V, 4 Exs.

7) オオヒメハナカミキリ

Pidonia grallatrix (BATES)

29. VI, 1 Ex. 31. VII, 1 Ex.

8) キベリクロヒメハナカミキリ

Pidonia discoidalis PIC

15. V, 1 Ex.

9) ナガバヒメハナカミキリ

Pidonia signifera (BATES)

29. VI, 1 Ex. 4. VII, 2 Exs.

10) セスジヒメハナカミキリ

Pidonia amentata (BATES)

15. V, 9 Exs.

11) フタオビノミハナカミキリ

Pidonia puziloi (SOLSKY)

15. V, 9 Exs.

12) チャイロヒメハナカミキリ

Pidonia debilis (KRAATZ)

29. VI, 1 Ex. 18. VII, 6 Exs.

31. VII, 1 Ex.

13) ヤマトキモンハナカミキリ

Judolia sexmaculata (LINNE)

10. VII, 2 Exs. 18. VII, 9 Exs.

14) マルガタハナカミキリ

Judolia cometes (BATES)

4. VII, 3 Exs. 10. VII, 1 Ex.

18. VII, 9 Exs. 31. VII, 9 Exs.

15) スバタマハナカミキリ

Judolidia bangi (PIC)

10. VII, 1 Ex. 18. VII, 1 Ex.

16) チャボハナカミキリ

Anoplodera misella (BATES)

10. VII, 6 Exs. 18. VII, 9 Exs.

17) ミヤマクロハナカミキリ

Anoplodera excavata (BATES)

29. VI, 9 Exs. 4. VII, 5 Exs.

10. VII, 9 Exs. 18. VII, 9 Exs.

18) ヒメアカハナカミキリ

Anoplodera pyrrha (BATES)

29. VI, 1 Ex. 10. VII, 2 Exs.

19) ツヤケシハナカミキリ

Anoplodera sctodes (BATES)

29. VI, 1 Ex. 10. VII, 2 Exs.

18. VII, 1 Ex.

20) クロハナカミキリ

Leptura aethiops PODA

29. V, 2 Exs. 29. VI, 2 Exs.

10. VII, 3 Exs.

21) ツマグロハナカミキリ

Leptura arcuata tsumagurohana OHBAYASHI

29. VI, 1 Ex.

22) ハネビロハナカミキリ

- Leptura latipennis* (MATSUSHITA)
 6. VI, 1 Ex. 18. VII, 1 Ex.
- 23) ヨツスジハナカミキリ
Leptura ochraceofasciata (MOTSCHULSKY)
 29. VI, 1 Ex. 10. VII, 1 Ex.
 18. VII, 9 Exs. 31. VII, 9 Exs.
- 24) フタスジハナカミキリ
Leptura vicaria BATES
 10. VII, 1 Ex. 18. VII, 6 Exs.
 31. VII, 9 Exs.
- 25) カタキハナカミキリ
Leptura femoralis (MOTSCHULSKY)
 18. VII, 1 Ex.
- 26) ヒゲジロハナカミキリ
Japanostrangalia dentatipennis (PIC)
 4. VII, 1 Ex. 10. VII, 2 Exs.
 18. VII, 6 Exs. 31. VII, 2 Exs.
- 27) ニンフホソハナカミキリ
Parastrangalis nymphula (BATES)
 4. VII, 9 Exs. 10. VII, 9 Exs.
 18. VII, 9 Exs. 31. VII, 9 Exs.
- 28) ニヨウホソハナカミキリ
Parastrangalis lesnei (PIC)
 4. VII, 4 Exs. 10. VII, 1 Ex.
 18. VII, 9 Exs. 31. VII, 2 Exs.
- 29) コウヤホソハナカミキリ
Strangalia koyaensia MATSUSHITA
 10. VII, 4 Exs. 18. VII, 6 Exs.
 31. VII, 9 Exs.
- 30) ジャコウホソハナカミキリ
Strangalia dulcis BATES
 29. VI, 2 Exs. 4. VII, 1 Ex.
 10. VII, 2 Exs. 18. VII, 2 Exs.
 31. VII, 1 Ex.
- 31) ミヤマホソハナカミキリ
Strangalia contracta BATES
 29. VI, 1 Ex. 4. VII, 9 Exs.
 10. VII, 9 Exs. 18. VII, 9 Exs.
 31. VII, 1 Ex.
- 32) ホソハナカミキリ
Strangalia hosohana OHBAYASHI
 4. VII, 4 Exs. 10. VII, 2 Exs.
31. VII, 1 Ex.
- 33) アメイロカミキリ
Stenodryas clavigera BATES
 29. VI, 1 Ex.
- 34) クスベニカミキリ
Pyrestes haematicus PASCOE
 18. VII, 1 Ex.
- 35) ウスイロトラカミキリ
Xylotrechus cuneipennis (KRAATZ)
 4. VII, 1 Ex. 18. VII, 1 Ex.
 31. VII, 3 Exs.
- 36) ムネマダラトラカミキリ
Xylotrechus grayii (WHITE)
 29. V, 1 Ex.
- 37) ニイジマトラカミキリ
Xylotrechus emaciatius BATES
 31. VII, 4 Exs.
- 38) シラケトラカミキリ
Clytus melaenus BATES
 29. V, 2 Exs. 4. VII, 1 Ex.
 18. VII, 9 Exs.
- 39) キスジトラカミキリ
Cyrtoclytus caproides (BATES)
 4. VII, 4 Exs. 10. VII, 2 Exs.
 18. VII, 1 Ex. 31. VII, 1 Ex.
- 40) クリストフコトラカミキリ
Plagionotus christophi (KRAATZ)
 29. V, 1 Ex.
- 41) エグリトラカミキリ
Chlorophorus japonicus (CHEVROLAT)
 29. VI, 1 Ex. 4. VII, 4 Exs.
 10. VII, 7 Exs. 18. VII, 9 Exs.
 31. VII, 9 Exs.
- 42) キイロトラカミキリ
Chlorophorus natabilis (PASCOE)
 18. VII, 1 Ex.
- 43) ホソトラカミキリ
Rhaphuma xenisca (BATES)
 4. VII, 4 Exs. 18. VII, 9 Exs.
 31. VII, 2 Exs.
- 44) トゲヒゲトラカミキリ
Demonax transilis BATES

29. VI, 9 Exs. 4. VII, 9 Exs.
10. VII, 9 Exs. 18. VII, 9 Exs.
31. VII, 9 Exs.
- 45) シロトラカミキリ
Paraclytus excultus BATES
4. VII, 1 Ex.
- 46) マツシタトラカミキリ
Anaglyptus matsushitai HAYASHI
10. VII, 1 Exs.
- 47) ヘリグロベニカミキリ
Purpuricenus spectabilis MOTSCHULSKY
29. V, 3 Exs.
- 48) ゴマフカミキリ
Mesosa myops japonica BATES
29. V, 1 Ex. 31. VII, 1 Ex.
- 49) タテスジゴマフカミキリ
Mesosa senilis BATES
18. VII, 1 Ex.
- 50) キクスイモドキカミキリ
Asaperda rufipes BATES
4. VII, 1 Ex. 18. VII, 2 Exs.
- 51) ヒシカミキリ
Microlera ptinoides BATES
29. V, 3 Exs. 18. VII, 1 Ex.
- 52) ヒトオビチビカミキリ
Sybra unifasciata FUJIMURA
29. VI, 1 Ex.
- 53) ドウボソカミキリ
Pseudocalamobius japonicus (BATES)
29. VI, 1 Ex.
- 54) エゾサビカミキリ
Pterolophia japonica BREUNING
29. VI, 1 Ex. 4. VII, 1 Exs.
10. VII, 2 Exs. 18. VII, 4 Exs.
31. VII, 9 Exs.
- 55) アトジロサビカミキリ
Pterolophia zonata (BATES)
4. VII, 1 Ex. 10. VII, 2 Exs.
18. VII, 9 Exs. 31. VII, 9 Exs.
- 56) トガリシロオビサビカミキリ
Pterolophia caudata (BATES)
4. VII, 1 Exs. 18. VII, 4 Exs.
31. VII, 2 Exs.
- 57) アトモンサビカミキリ
Pterolophia granulatus (MOTSCHULSKY)
31. VII, 2 Exs.
- 58) ヒメナガサビカミキリ
Pterolophia leiopodina (BATES)
6. VI, 1 Ex. 29. VI, 2 Exs.
10. VII, 1 Ex. 18. VII, 4 Exs.
31. VII, 2 Exs.
- 59) ナカジロサビカミキリ
Pterolophia jugosa (BATES)
29. V, 2 Exs. 29. VI, 1 Ex.
4. VII, 2 Exs. 18. VII, 4 Exs.
- 60) クワサビカミキリ
Mesosella simiola BATES
18. VII, 1 Ex.
- 61) カラフトヒゲカミキリ
Monochamus saltuarius (GEBLER)
29. V, 1 Ex.
- 62) ヒメヒゲナガカミキリ
Monochamus subfasciatus (BATES)
10. VII, 3 Exs. 18. VII, 9 Exs.
31. VII, 1 Ex.
- 63) センノキカミキリ
Acalolepta luxuriosa (BATES)
31. VII, 1 Ex.
- 64) ビロウドカミキリ
Acalolepta fraudatorix (BATES)
18. VII, 2 Exs.
- 65) ニセビロウドカミキリ
Acalolepta sejuncta (BATES)
31. VII, 1 Ex.
- 66) ヤハズカミキリ
Uraecha bimaculata THOMSON
31. VII, 1 Ex.
- 67) セミスジコブヒゲカミキリ
Rhodopina lewisii (BATES)
29. VI, 1 Ex. 4. VII, 1 Ex.
- 68) フタオビアラゲカミキリ
Rhopaloscelis bifasciatus KRAATZ
4. VII, 1 Ex. 10. VII, 2 Exs.
- 69) ドイカミキリ

- Doiuis divaricatus* (BATES)
6. VI, 2 Exs. 4. VII, 1 Ex.
- 70) シロオビチビカミキリ
Sybrodiboma subfasciata (BATES)
18. VII, 9 Exs. 31. VII, 9 Exs.
- 71) ゴマダラモモブトカミキリ
Leiopus stillatus (BATES)
18. VII, 3 Exs.
- 72) トゲバカミキリ
Eryssamena saperdina BATES
4. VII, 2 Exs. 10. VII, 5 Exs.
18. VII, 9 Exs. 31. VII, 9 Exs.
- 73) ホウノキトゲバカミキリ
Eryssamena sapporensis (MATSUSHITA)
18. VII, 9 Exs. 31. VII, 9 Exs.
- 74) ガロアケシカミキリ
Exocentrus galloisi MATSUSHITA
18. VII, 9 Exs. 31. VII, 9 Exs.
- 75) キッコウモンケシカミキリ
Exocentrus testudineus MATSUSHITA
4. VII, 1 Ex. 10. VII, 6 Exs.
18. VII, 9 Exs. 31. VII, 4 Exs.
- 76) シラオビゴマフケシカミキリ
Exocentrus guttulatus BATES
18. VII, 2 Exs.
- 77) ルリカミキリ
Bacchisa fortunei japonica GAHAN
18. VII, 1 Ex.
- 78) フチグロヤリボシカミキリ
Pareutetrapha eximia (BATES)
29. V, 9 Exs.
- 79) ニセシラホシカミキリ
Pareutetrapha simulans (BATES)
29. VI, 1 Ex. 4. VII, 9 Exs.
10. VII, 9 Exs. 18. VII, 9 Exs.
31. VII, 4 Exs.
- 80) ハンノキカミキリ
Cagosima sanguinolenta THOMSON
10. VII, 1 Ex.
- 81) シラホシカミキリ
Glenea relictata PASCOE
29. V, 5 Exs. 18. VII, 9 Exs.
- 82) ヨツキボシカミキリ
Epiglenea comes BATES
4. VII, 1 Ex 18. VII, 1 Ex.
- 83) ヘリグロリンゴカミキリ
Nupserha marginella (BATES)
29. VI, 1 Ex. 4. VII, 1 Ex.
10. VII, 1 Ex. 18. VII, 2 Exs.
31. VII, 1 Ex.
- 84) ヒメリンゴカミキリ
Oberea hebescens BATES
29. V, 9 Exs. 6. VI, 2 Exs.
- 85) ホソキリンゴカミキリ
Oberea inclusa PASCOE
31. VII, 1 Ex.

乙川上流の水生昆虫相

久永和彦

岡崎市の中心部を流れる乙川は、戦前よりゲンジボタルの生息地として知られ比較的自然にめぐまれており、水生昆虫類の生息に適した自然環境にある。

筆者は昭和57年に4回にわたり、乙川上流域の水生昆虫類を採集し、これまで23科49種を得た。なお、一部の種については1983年調査のデータがつけられている。

調査地は図1に示すように4ヶ所(st. 2, 6, 9, 18)を設定し、50cm×50cmの金属性コードラードを用いて採集し、ホルマリンで固定した。

本稿は目録のみで水生昆虫の季節的消長など生態的なことについては別に発表する予定である。なお、種の配列は津田松苗編「日本産水生昆虫目録」(昭和49年、ニューサイエンス社)による。

乙川上流産水生昆虫目録

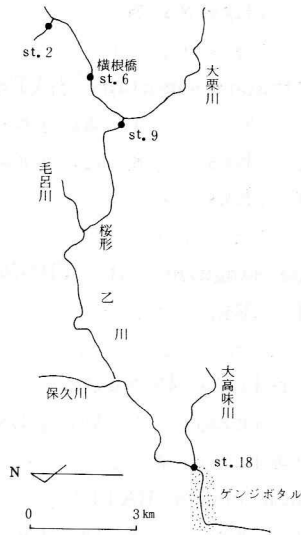


図1 乙川上流水系図 (採集地点)

蜉蝣目

1. モンカゲロウ科

- 1) フタスジモンカゲロウ
Ephemera japonica
28-V, 30-VII, 24-XI, 19-XI, 1982

- 2) モンカゲロウ
Ephemera strigata
28-V, 1982

2. カワカゲロウ科

- 3) ケイロカワカゲロウ
Potamanthus kamoni
28-V, 1982

3. トビイロカゲロウ科

- 4) ナミトビイロカゲロウ
Paraleptophlebia chocorata
28-V, 1982

- 5) *Paraleptophlebia* sp
18-III, 1983

- 6) *Choroterpes* sp
27-VII, 1983

4. マダラカゲロウ科

- 7) オオマダラカゲロウ
Ephemerella basalis
28-V, 30-VII, 1982

- 8) ヨシノマダラカゲロウ
Ephemerella yoshinoensis
28-V, 1982

- 9) クロマダラカゲロウ
Epemerella nigra
28-V, 1982

- 10) *Ephemerella* sp
28-V, 19-XI, 1982

5. コカゲロウ科

- 11) シロハラコカゲロウ
Baetis thermicus
28-V, 1982

6. フタオカゲロウ科

- 12) チラカゲロウ
Isonychia japonica
28-V, 30-VII, 19-XI, 1982

- 13) ナミフタオカゲロウ
Siphonurus sanukensis
28-V, 1982

- 14) ヒメフタオカゲロウ
Ameletus montanus
18-III, 1983

7. ヒラタカゲロウ科

- 15) ウエノヒラタカゲロウ
Epeorus uenoi
30-VII, 24-IX, 1982
- 16) エルモンヒラタカゲロウ
Epeorus latifolium
28-V, 30-VII, 24-IX, 19-XI, 1982

- 17) タニヒラタカゲロウ
Epeorus napaeus
28-V, 24-IX, 1982

- 18) ナミヒラタカゲロウ
Epeorus ikanonis
19-XI, 1982

- 19) シロタニガワカゲロウ
Ecdyonurus yoshidae
28-V, 1982

- 20) *Ecdyonurus* sp
28-V, 24-IX, 19-XI, 1982

- 21) *Heptagenia* sp
24-IX, 1982

蜻蛉目

8. カワトンボ科

- 22) カワトンボ
Mnais strigata
27-VII, 25-XI, 1983

9. サナエトンボ科

- 23) オナガサナエ
Onychogomphus viridicostus
28-V, 1982
- 24) オジロサナエ
Stylogomphus suzukii
28-V, 1982
- 25) ヒメクロサナエ
Lanthus fujiacus
28-V, 30-VII, 1982

10. ヤンマ科

- 26) カトリヤンマ
Gynacantha japonica
24-IX, 1982

横翅目

11. カワゲラ科

- 27) オオクラカケカワゲラ
Paragnetina tinctipennis
28-V, 30-VII, 1982
- 28) カミムラカワゲラ
Perla tibialis
28-V, 30-VII, 19-XI, 1982
- 29) オオヤマカワゲラ
Oyamia gibba
24-IX, 19-XI, 1982
- 30) ヤマトフタツメカワゲラ
Neoperla nipponensis
28-V, 1982

半翅目

12. ナベブタムシ科

- 31) ナベブタムシ
Aphelochirus vittatus
28-V, 30-VII, 24-IX, 19-XI, 1982

広翅目

13. ヘビトンボ科

- 32) ヘビトンボ
Protohermes grandis
19-XI, 1982

毛翅目

14. ナガレトビケラ科

- 33) ムナグロナガレトビケラ
Rhyacophila nigrocephala
28-V, 30-VII, 24-IX, 19-XI, 1982

34) イノプスマトビケラ

- Mystrophora inops*
28-V, 1983

15. ヒゲナガトビケラ科

- 35) ヒゲナガカワトビケラ
Stenopsyche griseipennis
28-V, 1982
- 36) チャバネヒゲナガカワトビケラ
Parastenopsyche sauteri
28-V, 30-VII, 19-XI, 1982

16. シマトビケラ科

- 37) コガタシマトビケラ
Hydropsychodes brevilineata
28-V, 30-VII, 24-IX, 19-XI, 1982
- 38) ウルマーシマトビケラ
Hydropsyche ulmeri
28-V, 30-VII, 24-IX, 19-XI, 1982

17. ケトビケラ科

- 39) ニンギョウトビケラ
Goera japonica
28-V, 30-VII, 24-IX, 19-XI, 1982
- 40) コカクツツトビケラ
Dinarthredes japonica
28-V, 30-VII, 24-IX, 19-XI, 1982
- 41) クロツツトビケラ
Uenoa tokunagai, 1983
18-III, 26-V, 27-VII

鞘翅目

18. ヒラタドロムシ科

- 42) ヒラタドロムシ
Mataeopsephenus japonicus
28-V, 30-VII, 24-IX, 19-XI, 1982

19. ナガドロムシ科

- 43) *Helichus* sp
28-V, 24-IX, 1982

20. ホタル科

- 44) ゲンジボタル

Luciola cruciata
28-V, 19-XI, 1982
双翅目

21. ガガンボ科

- 45) Tipula sp
24-IX, 19-XI, 1982
- 46) Antocha sp
28-V, 24-IX, 19-XI, 1982
- 47) Eriocera sp
28-V, 24-IX, 19-XI, 1982

22. ユスリカ科

- 48) Chironomus sp
28-V, 1982

23. シギアブ科

- 49) Atherix sp
24-IX, 19-XI, 1982

参考文献

1. 津田松苗編(1974) 水生昆虫の生態と観察, ニューサイエンス社
2. 河田 覚他(1973) 日本幼虫図鑑, 北隆館
3. 津田松苗 (1970) 水生昆虫学, 北隆館
4. 津田松苗 (1971) 水生昆虫(カラー自然六山正孝ガイド 7) 保育社

アオマツムシの寄生植物及びヒササキへの産卵状況

久永和彦

帰化昆虫であるアオマツムシ (Calyptotrypus hibinonis) の分布状況については、「三河の昆虫」№.29, (1982) に報告した通りであるが、今回、アオマツムシの寄生植物及びヒササキへの産卵状況を調べた結果を報告する。

1. 寄主植物について

アオマツムシの寄主植物として古くからサクラ、モモ、カキ、ナシ、プラタナス、カシなどが知られている(村松, 1932, 1935)。今日のように生息場所が公園から、街路樹、社寺林

科名	別種名
バラ	サクラ、ロメ、ナシ、リンゴ、オウトウ、スモモ、カイドウ、シヨリンバイ、モモ、カナメモチ
ブナ	コナラ、クリ、イヌビワ、シイタケ、アラカシ、ウバメガシ、アカガシ、マチバシ
モチノキ	モチノキ、クロササモチ、ツヨゴ
カエデ	トウカエデ、ヒナウチワカエデ、モミジ
クスノキ	クスノキ、カオクキノキ、ケイケイジュ
メ	エンジュ、ニセアカシア、サイカチ
ツバキ	ツバキ、ササシガ、ヒササキ
レ	ケナキ、ムクノキ
トウダイグサ	アカメギシワ、ナンキンハゼ
ミカン	ミカン、カラスザンショウ
クワ	イヌビワ、クワ
カバノキ	ヤシロブシ、ハシノキ
モクレン	モクレン、シヂロブシ
ツツジ	サツキ、ヤマツツジ類
スズカケノキ	プラタナス
ヤナギ	シダレヤナギ
カツラ	カツラ
メキ	ヒイラギナンテン
ユキノシタ	アジサイ
センダングサ	センダングサ
クマツヅク	クサキ
モクセイ	キンモクセイ
スイカスラ	サンゴジュ
クワメモチ	ナツメ
ミハキ	サルズベリ
カキ	カキ
ツタウルシ	ツタウルシ
ウコキ	ウコキ
マンサク	マンサク

表1
アオマツムシの寄主植物一覧

庭、雑木林、山林へと拡大されてくると、アオマツムシの各種植物への被害も目につくようになってきた。

すでに伊勢市においては、1968年～1977年の10年間に及ぶアオマツムシの生態的分布、生息密度などの調査(杉浦1980)が行われ、寄主植物として11科22種をあげている。

その後、本種がカキ、ナシなどの果実を加害する重要な農業害虫であることが明らかになると同時にその寄生植物の数も27科56種(石川ら1981, 1982, 宮下1981)にもなった。

筆者は新たに、マテバシイ、ソヨゴ、ゲツケイジュ、ヤマツツジ類、ヤツデ、ツタウルシを確認したので寄主植物は29科62種に達する。(表1)

寄主植物の内訳を見るとバラ科植物が全体の16%で最も多く、続いてブナ科の13%、以下モチノキ科、カエデ科、クスノキ科、マメ科となり、大部分が落葉広葉樹で占められている。しかし最近になって常緑性樹種への被害も目立つようになってきた。

すでに杉浦(1980)も指摘している通り本種

の分布拡大の傾向が、落葉広葉樹中のサクラを基盤として都市周辺の山林に浸透し、次いでバラ科、などの落葉広葉樹へ移り、次第に常緑広葉樹へ移行して天然林に分布して行くようである。特に三河地方の都市周辺の山林は常緑低本類のヒサカキが多く自生し、ヒサカキを中心に繁殖の基盤を作っていることがわかった。

しかし、本種はもともと市街地に多く生息し、郊外に出るにしたがって少なくなっているように都市型の自然を好んで生息している。従って鳥や食肉性の昆虫が多く、生態系の均衡のとれた森林には侵入しにくいと考えられているが、食性の多様化と共に、登山道など人の往来可能な空間があれば、森林内に入り込むことも十分考えられる。

2. ヒサカキへの産卵状態について

アオマツムシの産卵樹はこれまで、サクラ、ウメなどバラ科植物のPrunus属を中心に12科21種が記録されている(杉浦1980, 石川1981, 武田1983)。

表2 アオマツムシの産卵植物一覧

科	樹 種 名
バ ラ	サクラ, ウメ, ナシ, リンゴ, オウトウ, スモモ, モモ
ブ ナ	クリ
モチノキ	ソヨゴ
クスノキ	ゲツケイジュ
ツバキ	ヒサカキ, サカキ
ツツジ	モチツツジ, ヤマツツジ(類), ネジキ
メギ	ヒイラギナンテン
カツラ	シダレカツラ
ユキノシタ	アジサイ
カキノキ	カキ
ウルシ	ツタウルシ
アカネ	クチナシ

このうち、ソヨゴ、ゲッケイジュ、ヤマツツジ類、ツタウルシは本年筆者が確認したものである。

筆者は更にアオマツムシの山林での動向を調査するため、1984年、9月、岡崎市美合町地区を調査地に設定した。この付近は通称「緑ヶ丘」と呼ばれており、10年程前から山林を開発し宅地造成した新興住宅地である。

山林内にはヒサカキ、ソヨゴなど常緑性低木類の他、マツ、クヌギなどの高木類も自生して

いるが、アオマツムシの被害はほとんどヒサカキに集中しており、このことは東名高速道路東側の山林においてもより顕著に観察された。

このことから、ヒサカキを指標種としてアオマツムシの森林内への侵入状況を知る一つの有効な方法と思われる。

今回の調査では、道路から山林側3m以内のヒサカキ約60株について、樹高300cm以下の樹木を対象に産卵状態を調べた。その結果は表3ようになった。

表3 ヒサカキへの産卵状態 (59.11.25)

	産卵孔の大きさ (mm)			地上からの高さ	産卵樹(枝)の直径	産卵樹の高さ	幹に対する産卵孔の方向	過年度産卵の有無	
	タテ	ヨコ	深さ					有・無	本年産卵孔より
1	7.0	4.0	1.0	90cm	30.0cm	300cm	N		
2	5.0	3.0	1.0	160	13.0	200	N		
3	3.0	3.0	1.0	120	17.0	190	N	有	43 上方
4	2.5	2.0	1.0	165	10.0	195	N		
5	3.5	3.0	1.0	63	15.0	163	N		
6	3.5	3.0	1.0	78	22.0	150	N		
7	4.0	3.0	1.0	150	20.0	150	N		
8	4.0	3.0	1.0	60	20.0	190	NS		
9	3.0	2.5	1.0	63	20.0	190	NS		
10	4.0	3.0	1.0	50	25.0	190	N	有	20 上方
11	3.0	2.5	1.0	60	9.0	160	N		
12	4.0	2.5	1.0	150	15.0	165	N		
13	4.0	3.0	1.0	109	30.0	169	N	有	11 上方
14	4.0	3.0	1.0	150	28.0	169	N	有	20 上方
15	4.0	3.0	1.0	153	15.0	250	N		
16	3.0	2.5	1.0	160	15.0	250	N	有	80 上方
17	3.0	3.0	1.0	151	15.0	160	N		
18	4.0	3.0	1.0	150	23.0	165	N		
19	4.0	3.0	1.0	140	28.0	151	N		
20	4.0	4.0	1.0	145	20.0	151	N		
21	3.0	3.0	1.0	151	15.0	151	N		
22	2.0	1.5	1.0	40	17.0	70	N		
23	3.0	2.0	1.0	43	10.0	70	N	有	20 上方
24	4.0	3.0	1.0	90	15.0	95	N		
25	4.0	3.0	1.0	75	20.1	250	N		
26	4.0	3.0	1.0	140	12.0	76	N		
27	4.0	8.0	1.0	168	9.0	189	N		

1) 産卵孔の位置

300cmまでのヒサカキを対象にしたが、産卵孔の発見された樹木の高さは150~200cmのものが最も多かった。

地上からの高さは、150cm以上が37.0%で最も多く、50~75cmは25.9%であった。

幹(枝)に対する産卵孔の方向はすべて北側

すなわち、道路に面した明るい方につけられていた。

2) 産卵樹(枝)の直径

9.0~30mmの範囲で、そのうち11~20mmで全体の72.9%を占めた。10mm以下の細枝は11.1%で、30mm以上は0%であった。しかし、今年9月26日の夜、庭木のゲッケイジュの40mmの幹に産卵している雌を観察している。

3) 産卵孔の大きさ

交尾を終えた雌成虫は、約3週間後に産卵可能となるが(武田ら1981)、雌は産卵に先立って、最初口器によって木部までかじり孔をあける。その大きさは、2.5~7.0×2.0~8.0mmで、最も多いのが、4.0×3.0の円形でその深さ(樹皮の厚さと同一)は1.0mmであった。

4) 過年度産卵孔の有無

本年度産卵孔のある幹(茎)に対する過年度産卵孔の割合は全体の22.2%で、この数値の大小で発生経過年度や発生密度が推定できるようである。

5) 樹皮内における産卵状態

産卵孔の内部及び産卵状態について杉浦(1980)、武田ら(1982)の報告がある。

雌の産卵管は図1に示すように錐状で鋸歯を

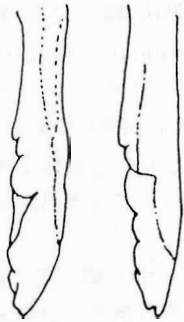


図1 アオマツムシの産卵管(先端部)

具えた産卵管を樹皮下に挿入し、卵は産卵孔から3~5mm離れた部分に産下される。樹皮をはがして内部をみると、上下、左右の4ヶ所に×字状に産卵されている。卵ベッコウ色でその大きさは0.5×4~4.5mmで、バナナ状に産卵されており、その数は1ヶ所に5~8個で1つの産卵孔では20~40個と思われる。

しかし、過年度産卵孔跡を調べてみると、産

卵孔の形状は必ずしも×字状なく、Y字形、逆Y字形などあり、産卵数も相当幅があるようである。(図2)

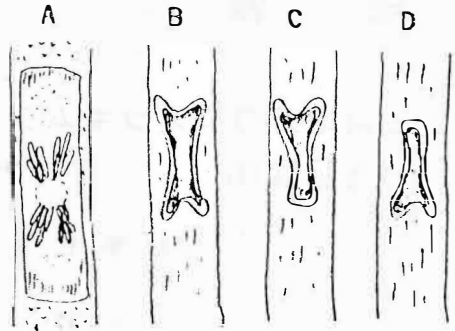


図2 A 樹皮内での卵の配列状態(サクラ)
 B 過年度産卵孔跡(ヒサカキ)
 C " (")
 D " (")

参考文献

1	松村 松年 (1932)	大日本害虫図説 明治書院
	" (1935)	日本昆虫大図鑑 刀江書院
2	杉浦 邦彦 (1980)	伊勢神宮とその周辺におけるアオマツムシの発生動向、伊勢神宮境内昆虫調査報告書別刷
3	石川 千秋 河野 幹幸 渡辺 勇 藤井 正己 (1981)	アオマツムシ(<i>Calyptotrypus hibionis</i> Matsumura)による果樹類の被害について、関西病虫研報(23)別刷
5	石川千秋他 (1982)	帰化昆虫アオマツムシの農業害虫性について、職員自主研究グループ研究報告書(コピー)
6	宮下 春美 (1981)	農業害虫としてのアオマツムシ、日本昆虫学会東海支部第29回大会第90回例会資料
7	武田 享 (1983)	アオマツムシその後、啓蒙 Vol.1 No.2
8	武田 享 斉藤 有史 桜井 宏紀 (1981)	岐阜地方におけるアオマツムシの生活史、日本昆虫学会東海支部報(34)

短報

三河地方のコメツキムシ
分布記録(1)

大平仁夫

三河地方のコメツキムシの分布記録は、尾張地方に比して比較的よくなされているが、地域的に不十分な所も多くみられるので、今後判明したものから順次このシリーズで明らかにして行きたいと思う。標本などのご支援を頂ければ幸である。

1. 船着山(新城市)

この山のコメツキムシは、山崎(1978)によって10種が記録されている。筆者は今度、松野更一氏の標本により、次の2種を新に見出したのでここに追加する。

1) *Agrypnus (Agrypnus) binodulus*
binodulus (Motschulsky)

サビキコリ

21-V, 1978 (1♂)

普通種であるが、船着山も含めて新城市からの記録はないようである。

2) *Ampe dus (Ampe dus) hypogastricus*
hypogastricus (Candèze)

アカハラクロコメツキ

16-IV, 1978 (1 ex.); 21-V, 1978 (1 ex.)

普通種で、船着山も含めて新城市からまだ記録がないようである。

2. 六所山(豊田市)

豊田市の六所山(海拔611m)は、山麓に市の少年自然の家やキャンプ場があり、ここの昆虫相については市教育委員会(1979)でまとめられ、コメツキムシ16種が記録されている。

ここでは、松野更一氏が採集された種を追加記

録する。

1) *Actenicerus pruinosus*

Motschulsky シモフリコメツキ

7-V, 1978 (1♂1♀); 14-V, 1978

(1♂3♀)

平地から山地にかけて広く分布する。豊田市からはこれが最初の記録と思われる。

2) *Denticollis nipponensis* (Lewis)

ベニコメツキ

14-V, 1978 (2♂)

豊田市からは市史(1978)の中に産地不明の記録があり、大平(1984)は西中金から記録しているが、六所山からはこれが最初の記録と思われる。

3) *Gambrinus vittatus* (Lewis)

タテジマカネコメツキ

14-V, 1978 (5 exs.)

普通種であるが、豊田市からは六所山も含めてこれが最初の記録と思われる。

4) *Ampe dus (Ampe dus) orientalis*

(Lewis) アカコメツキ

14-V, 1978 (1♀)

山地性の種で、愛知県では北設楽山岳地帯での記録があるのみである。このような場所で見出されたのは興味深いことである。

5) *Dolerosomus gracilis* (Candèze)

キバネホソコメツキ

7-V, 1978 (2♀), 14-V, 78 (2♂2♀)

各地に見出される普通種であるが、豊田市からは六所山も含めてまだ記録がないようである。

引用文献

豊田市史六巻(自然・原始・古代・中世)(1978). 1~860(豊田市)。

山崎隆弘(1978)舟着山のコメツキムシ。採集ニュース, 3:35(三河昆虫研究会)。

豊田市教育委員会(1979)豊田市の昆虫I: 1~83。

大平仁夫(1984)原田猪津氏氏採集のコメツキムシ(II)。佳香蝶, 36(138)。

(岡崎国立共同研究機構・生理学研究所)

富山村で採集した クワガタムシ2種

松野更一*・竹内克豊**

筆者等は、北設楽郡富山村で、オニクワガタとマダラクワガタの終令幼虫を採集し、飼育の結果、羽化して成虫となったので、愛知県下の新産地として記録しておきたい。

1) オニクワガタ *Priamognathus angularis* WATERHOUSE, 2♂♂, 北設楽郡富山村大沼, 13. V. 1984 幼虫採集～7. VII. 1984 羽化, 竹内採集。1♂, 同地, 13. V. 1984 幼虫採集～20. VII. 1984 羽化, 松野採集。

2) マダラクワガタ *Aesalus asiaticus* LEWIS, 1♀, 北設楽郡富山村大沼, 13. V. 1984 幼虫採集～20. X. 1984 羽化, 松野採集

1) 本種の幼虫は豊根村の民宿花香に依託してあったので、羽化した成虫を確認したのは10月20日であるが、羽化日はそれ以前と思われる。

採集個体は標高約1,000mの伐採跡地附近の自然林で、両種共に同じネジキの倒木より採集した。

「豊川市北部（平尾町） のカミキリムシ」

浅岡孝知

今年度も前年に継続して調査したところ、更に5種を追加確認することができたので報告する。これで、当地域におけるカミキリムシは、39種で、両町では64種となる。

1. *Clytus melaenas* Bates
シラケトラカミキリ 13-V(1), 26-V

(5). 伐採木から多く見出された。

2. *Xylotrechus grayii* White
ムネマダラトラカミキリ 13-V(1)

伐採木から見出された。比較的少いようである。

3. *Xylotrechus rufilius* Bates
クビアカトラカミキリ 26-V(3)

伐採木から多く見出された。

4. *Grammographus notabilis* Pascoe
キイロトラカミキリ 23-VI(3) コナラ

の伐採木から見出された。

5. *Chlorophorus annularis* Fabricius
タケトラカミキリ 18-VII(1) 飛翔中の本種を採集した。

参考文献

- 1) 浅岡孝知 (1980) 豊川市北部(財賀町、平尾町)のカミキリムシ相、三河の昆虫No.30 142P～145P.

キイロトラカミキリムシ 岡崎市に産す

浅岡孝知

キイロトラカミキリ *Grammographus notabilis* Pascoe は、岡崎市においては比較的稀な種であり、文献にも記載されていないようなので報告する。採集された所が市街地であったことも興味深い。

〈採集記録〉

採集地 岡崎市問屋町地内
採集月日 1984年6月6日 1Ex

〈参考文献〉

- 1) 村田文彦 (1980) 岡崎市のカミキリムシ (第1報) 三河の昆虫No.27: 112P.
- 2) 湯沢宜久 (1981) 愛知県のカミキリ分布

資料 三河の昆虫No.28: 120P~121P.

- 3) 村田文彦 (1982) 岡崎市のカミキリムシ (第2報) 三河の昆虫No.29 135P.

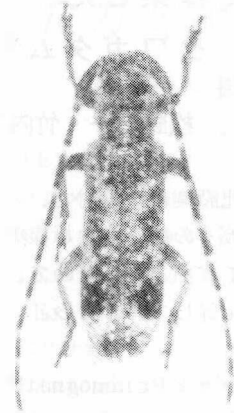
タテジマカミキリの採集2例

河路掛吾

筆者はこの地方の山間部においては珍しいと思われるタテジマカミキリ *Aulaconotus pachypezoides* BATESを採集しているので報告する。

- 1. 2 exs., 豊田市松平町方所山, 27. II. 1983 食樹 (カクレミノ) 採集, 16~21. VII. 1983 羽化脱出
- 2. 6 exs., 北設楽郡設楽町段戸 (駒ヶ原高原) 10 VII. 1983 食樹 (ヤマウコギ) 採集, 11~29. VIII. 1983 羽化脱出

末筆ながら、採集に協力していただいた関根忠、横井秀樹の両氏に厚くお礼申しあげる。



- 2. 豊田市元山中町 1 ex., 4. IX. 1983 食樹 (ハンノキ) 採集, 22. VIII. 1984 羽化脱出; 11 exs., 3. I. 1984 食樹 (ヤシャブシ) 採集, 6. VIII~25. IX. 1984 羽化脱出

ヤマトキモンハナカミキリ 富山村で採集

西川 誠

ハイイロツクビカミキリ の採集記録

河路掛吾

筆者は採集例の少ないハイイロツクビカミキリ *Cylindilla grisescens* BATESを2ヶ所において採集しているので報告しておく。

- 1. 北設楽郡設楽町段戸駒ヶ原 2 exs., 4. VII. 1982 食樹 (クリ) 採集, 5. VIII. 1983 羽化脱出; 1 ex., 25. IX. 1983 食樹 (クリ) 採集, 20. VIII. 1984 羽化脱出 (写真)

筆者は、富山村で、本種 (*Judolia japonica* (TAMANUKI)) をクリの花上で採集しているので報告しておきたい。

採集地: 愛知県北設楽郡富山村漆島
採集日: 1981年6月21日 (1♂2♀)

本種は、豊根村、東栄町などで採集されているが、いずれも♂であって、♀の記録は愛知県下、初めてではないかと思われる。また、富山村初記録である。

参考文献

- (1) 豊根村教育委員会 (1980) 愛知県豊根区の動物第3部, 愛知県北設楽郡のカミキリムシ: 231 ~ 281.

ハラグロオオテントウ 豊川市に産す

浅岡孝知

ハラグロオオテントウ *Callicaria superba* Mulsant は、平地産であるが、比較的稀である。豊川市平尾町地内で発見することができたので報告する。

〈採集記録〉

採集地 豊川市平尾町地内
採集月日 1984年5月24日 1ex.
(豊橋市天伯町富士見19-2)

安城市で採集した甲虫類5種

久永和彦

筆者は昭和50年1月~昭和59年3月、安城市に在住し、その間、矢作川、社寺林など数少ない自然を探して昆虫類を採集した。

甲虫類は100種以上採集しているが、その内の数種について記録にとどめておきたい。

1. オサムシモドキ

本種はゴミムシ科の昆虫で、河原に特有な種であるが、最近では個体数がめっきり減り採集記録も少ない。

1-XI, 1981 矢作川河原 1ex.

2. ヨツスジトラカミキリ

トラカミキリの中では大きく美しい種である。過去の採集記録は佐久島、伊良湖など暖地であるが、内陸部の平地で採集されたことは珍しいことである。

3-VIII, 1979 二本木町 1ex.

3. ヒラタクワガタ

暖地性の種で、平地には少ない。安城市内では樹相の豊かな社寺林や矢作川のヤナギの木で繁殖している。個体数は少なくない。

30-VII, 1982, 1-VIII, 1983 矢作河畔

4. コカブトムシ

とくに珍しい種類ではないが、安城の社寺林で採集された。

1-VII, 1982 桜井町 1ex.

5. クロスジクチボソコメツキ

安城市内から数種のコメツキムシを採集しているが、本種が矢作川河原で採れているので記録しておく。同定は大平仁夫先生にお願いした。感謝する。

12-V I, 1982 矢作川河原 1ex.

岡崎市でギンイチモンジセセリを採集

鳥居彰

採集地 岡崎市中之郷町
採集日 1980年7月13日
採集頭数 5♂♂1♀

同地は矢作川の河原で、附近に生えるススキで発生していると思われる。

他に多くの個体が観察できた。

採集地 岡崎市本宿町一里山
採集日 1984年7月20日
採集頭数 4♀♀

採集した個体はすべて♀で破損ひどく、発生のピークをすぎているように思われる。

豊橋市で見かけた 師走の蝶

鈴木友之

昭和59年も年の瀬に近い12月上旬、晩秋の気配が残る陽光を求めて、蝶の姿を追って見た。

ふだんは忘れがちな平凡な蝶ばかりであったが、生き物の少ないこの時期では、何か、なつかしさを覚えるものである。

1. モンシロチョウ 9日 1♀ 岩崎町。
2. キチョウ 5日 1♂ 問屋町、1♀ 上地町、8日 1ex. 下五井町、9日 1ex. 岩崎町。
3. ウラナミシジミ 2ex. 神野新田町。
4. ベニシジミ 5日 1ex. 問屋町。
5. キタテハ 5日 1ex. 神野新田町、9日 1ex. 岩崎町。
6. ヒメアカタテハ 5日 1ex. 神野新田町。
7. アカタテハ 9日 1ex. 岩崎町。

以上7種を確認した。2, 5, 6, 7の各種は成虫越冬種ではあるが、例年この頃には姿を見ることは少ない。1, 3, 4の各種は、年間数世代を繰り返した最後の個体で、死を目前にして破損を著しく、弱々しい飛翔であった。12月9日、豊橋市の気温は最低が0.6℃、最高は14.8℃であった。

愛知県における オオウバタマコメツキの記録

大平仁夫

オオウバタマコメツキ(*Paracalais yamato* Nakane) は奈良県で最初に見出され、現在では香川県、岡山県、福岡県から知られている珍種である。

愛知県からは照井(1980)によって三ヶ根山から記録されたのが唯一の記録である。筆者は照井氏の好意で、この記録に用いられた標本を検査することができたが、これは体長35mmのウバタマコメツキの雌個体であった。したがって、愛知県における本種の記録は同定の誤りであるので、ここに訂正する。

照井正康(1980)採集報告(1) 三ヶ根山。三河の昆虫, 25:102。

訂正と追加

穂積俊文

本誌No.29に「豊橋市東部丘陵初夏の甲虫」を書いたが、白井勝己氏の御指摘で再検討してみた。次のように訂正と追加をする。

1) *Chlorophorus xenicus* Bates

ホソトラカミキリ

小楯板がうす黒く見え、誤同定をした。触角にトゲを発見し、白井氏の御指摘のように *Dem-onax transilis* Batesトゲヒゲトラカミキリであった。石巻山、本坂峠ともに小楯板が明瞭な黒でないので誤ったらしい。訂正する。白井氏に感謝する。

2) *Ectomychus basalis* Gorham

カタベニケブカテントウダマン

1979年6月3日、本坂峠で枯枝を叩網を用いて1ex. 採集した。なかなか同定できずにいた標本であった。